



東京学芸大学附属国際中等教育学校

第8回 公開研究会のご案内（第2次）

令和4（2022）年10月吉日

各位

東京学芸大学附属国際中等教育学校校長 荻野 勉

「何ができるようになるか」が問われる新学習指導要領が実施されています。このことは「ここで」できた学びが「あそこでも」できるように習得されているのかが問われていることに他なりません。「学びの転移」は国際バカロレアの教育の大きな特色のひとつです。この機会に、本校の授業において、どのように「学びの転移」が引き起こされているのかをご覧ください、皆さまの学校で生かすことが可能かどうかについて、率直にご意見をいただければ幸いです。

研究テーマ： 「学びの転移」を促す概念・文脈の活用 ～国際バカロレア（IB）の教育システムを活かした探究学習～

IBではATT（Approaches to Teaching）として6つの教育原理（探究を基盤とした指導、概念に重点を置く指導、文脈化された指導、協働に基づく指導、生徒の多様性に応じて差別化した指導、評価を取り入れた指導）が規定されています。今年度は昨年度の校内研究テーマの方向性を継承し、IBの6つの教育原理のうち特に「概念」と「文脈」に焦点を当て、学習活動においてどのように「学びの転移」が促されているか、検証しています。

公開研究会では、同一学年の異教科の教員で構成された「学年グループ」や「DPグループ」、「教科グループ」、「SSHグループ」、「生徒主体の探究グループ」、「評価グループ」のそれぞれで、上記の研究テーマ（全体テーマ）に関連したグループテーマ（協議会テーマ）を設定し、公開授業をふまえた授業協議会を開催します。協議会を通してご参加の方々と問題意識や課題を共有していきたいと考えております。宜しくお願ひ致します。

本校研究部より

期日	令和4（2022）年11月26日（土）12:00～17:25
会場	東京学芸大学附属国際中等教育学校（「全体提案・卒業生座談会」は事前オンライン配信）
後援	東京都教育委員会 練馬区教育委員会
主催	東京学芸大学附属国際中等教育学校

参加のお申込みについて

お申込み期間は **10月31日（月）8:30 ～11月14日（月）の期間のみ**とします。

- お申込み（ご参加）いただけるのは、教育関係者のみです。
- 右のQRコードまたは学校ホームページのお申込みフォームにご入力ください。
- 9つの研究グループのいずれかを選んでください（各研究グループで公開授業と授業協議会がセットになっております）。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各研究グループの参加人数を制限させていただきます。30名または50名の上限に達したら上記期間内でもお申込みを中止させていただきます（学校ホームページにてお知らせします）。
- ご参加できるのはお申込みが受理された方のみとします（その他の方の当日のご来校はご遠慮ください）。
- ご参加の方のみ、メールでお送りするURLから「全体提案・卒業生座談会」の動画の視聴が可能になります。
- 各研究グループの公開授業と協議会の概要等を記した公開研究会の冊子は、ご来校の方に当日会場にて配布します。



事前オンライン配信：「全体提案・卒業生座談会」

参加者への動画URLはメールにてお送りします（11月18日予定）

卒業生座談会ファシリテーター：古家 眞 東京学芸大学 附属学校運営部 運営参事

当日のスケジュール 12:00～ 受付

12:00～12:30	12:40～13:30	13:45～14:35	14:50～16:10	16:25～17:25
生徒課題研究 発表	公開授業Ⅰ	公開授業Ⅱ	授業協議会	SSH 情報交換会 ～理数探究実践に向けて～ 高校探究プロジェクト（東京学芸大学） IB 導入検討校相談会（IB 機構主催）

○第 2 学年グループ：教科融合の視点で提案する道徳授業 指導助言者 小松 万姫 国際基督教大学 シニア・レクチャラー 公開授業Ⅱ 重要概念「ものの見方」の視点から考える平等と公平 浅井 悦代（国語）・鮫島 朋美（理科）	
○第 4 学年グループ：沖縄ワークキャンプの活動から各教科の学びへの転移 公開授業Ⅱ 沖縄ワークキャンプの活動から各教科の学びへの転移 ～沖縄ワークキャンプの生徒発表を通して～ 指田 昭樹（数学）・伊藤 穂波（理科）・手塚 史子（外国語）	
◎国語グループ：書くプロセスにおける概念の活用と転移 公開授業Ⅱ〔1 年〕 MYP の枠組みにおけるライティング・ワークショップの実践 廣瀬 充	
○社会地歴公民グループ：MYP「個人と社会」における学習指導と学習指導要領との関係 公開授業Ⅰ〔4 年〕 MYP 関連概念を活用した地理総合の授業実践 ～地理的課題と国際協力～ 中村 文宣 公開授業Ⅱ〔2 年〕 MYP 関連概念を活用した中学歴史的分野の授業実践 ～江戸時代の三大改革～ 大橋 典子	
◎数学グループ：「概念的理解」を志向する数学科授業の実践 指導助言者 西村 圭一 東京学芸大学大学院 教授 公開授業Ⅰ〔1 年〕 図形の構成における概念的理解 新井 健使 公開授業Ⅱ〔3 年〕 関数における概念的理解 本田 千春	
◎DP グループ：DP における教科特有・教科横断の概念的な学び 公開授業は英語ですが、授業協議会は日本語で実施します。 公開授業Ⅰ〔5 年 Visual Arts〕 What Is Art? 嶽 里永子・高田 慎之佑 Students consider the cultural significance of their own and others' works and the process by which their value is formed, by analyzing the different cultural contexts of artworks. 公開授業Ⅱ〔5 年 English A〕 Old Story, New Audience: How Interpretation Can Invert ベン スミス How does a contemporary audience's interpretation of <i>The Merchant of Venice</i> differ from that of an Elizabethan audience?	
○SSH グループ：実社会の状況を取り込んだ探究的な学びを実現する授業設計とその実践 ～家庭科の文脈の活用～ 公開授業Ⅱ〔6 年 化学〕 SS 家庭基礎の文脈から転移する SS 化学の探究活動 ～糖類について生活を科学する～ 森本 裕子	
○生徒主体の探究グループ：学びの転移としての「対話する国際教養」 公開授業Ⅰ〔3 年・4 年〕 対話するパーソナルプロジェクト 小林 万純（MYP コーディネーター） 公開授業Ⅱ〔5 年〕 対話する課題研究 藤木 正史（国際教養委員会委員長）	
○評価グループ：教科間連携を意識した授業における「学びの転移」と「評価」の役割 指導助言者 藤野 智子 東京学芸大学大学院 准教授 公開授業Ⅰ〔2 年〕 外国語科と技術科での IDU における評価に関する成果と課題 ～世界の食糧問題と技術移転に着目して～ 久保 達郎（外国語）・渡津 光司（技術） 公開授業Ⅱ〔5 年〕 保健体育科と理科の教科間連携における評価の可能性 ～すこやかに暮らしを築く科学的な思考～ 白波瀬 勇太（保健体育）・川上 佑美（理科）	

東京学芸大学 附属国際中等教育学校×高校探究プロジェクト

東京学芸大学高校探究プロジェクトは、2021 年度より、各教科や「総合的な探究の時間」などの教科横断の双方を射程に入れ、高等学校の教員の「探究的な学びの実践コミュニティ」の創出とその拡大を目指して活動を展開しています。<https://g-tanq.jp/>
探究的な学びの実装化には、一教師の想いだけでは越えられない壁があるのも現実です。それを嘆いているだけでは、教師のエージェンシー、すなわち、自ら考え主体的に行動して責任をもって変革を実現していく力は萎えていくばかりです。

- そもそもこのようなプロジェクトに意欲的に参加する先生方は、授業のあり方を変えていこうとする気持ちがある先生です。どちらかと言えば旧態依然の授業スタイルに固執するような先生方をどのように巻き込んでいくのかを考えていかないと、このプロジェクトが一部の先生の試みで終わってしまうように思います。（2021. 12. 19 キックオフイベントの参加者の声）
- 高校に入ってから何かを探究する、話し合うという機会がすごく少なくなり、答えがある問いしか与えられません。よって、学校と塾との違いがあまりないように感じます。（2022. 4. 29 探究の共創オンライン対話 参加高校生の声）
- 大切なのは生徒と教師が共に学び合う関係性をつくっていくことだと思います。「答えのない問題」に向き合うからこそできる「共創」を楽しめる「探究」の時間をつくっていきたい。（同上 参加教員の声）

上記のような声をふまえて、国際中等教育学校研究部長山本勝治と高校探究プロジェクトリーダーの西村圭一が問題提起をします。それもとに、対話を通して「壁」を乗り越えるための方策を見いだししょう。

東京学芸大学附属国際中等教育学校 研究部

〒178-0063 東京都練馬区東大泉 5-22-1

電話：03-5905-1326 E-mail: kenkyu@tguiss.jp<http://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp>